

令和7年度 ティーチング・ポートフォリオ勉強会 実施報告

1. 実施の目的

名桜大学 FD 委員会では、教員の教育能力向上および授業改善を目的として、「ティーチング・ポートフォリオ勉強会」を実施した。本勉強会は、教員自身の教育活動を体系的に振り返り、教育理念・方針・方法・成果を可視化することを通じて、授業改善および教育の質向上を図る FD 活動として企画されたものである。

ティーチング・ポートフォリオ (Teaching Portfolio) は、自らの教育活動を俯瞰的に振り返り、教育理念 (Philosophy) を軸として教育方針や授業方法、成果、将来の目標を体系的に整理するものである。本勉強会では、TP チャートを用いたワークショップ形式により、参加者が自身の教育活動を整理し、今後の教育改善に活かすことを目標とした。

また、参加者が将来的に新任教員の支援を担うメンターとなることも視野に入れ、本学における教育実践共有の基盤形成を目的として実施した。

2. 実施概要

本勉強会は全 2 回で構成し、導入編と実践編の段階的な学習プログラムとして実施した。

(1) 第 1 回勉強会 (導入編)

日時：令和 8 年 2 月 4 日 (水) 11:00~11:45

場所：本館 4 階 第 1 会議室 (対面・オンライン併用)

ファシリテーター：木村堅一 (FD 委員長)

参加者〈教員〉清水美里、当銘盛之、大城凌子、伊藤智美、三橋優介、木村堅一

〈職員〉新川悦子

第 1 回では、ティーチング・ポートフォリオの基本的な考え方と作成方法を解説し、TP チャートの構造 (理念・方針・方法・成果・目標) を理解することを目的とした。参加者は、テキストおよび動画教材を活用しながら、基本情報の入力、教育責任、改善・努力、成果・評価などの項目について個人作業を開始した。

第 2 回に向けて、参加者はテキストおよび動画を用いて TP チャートを作成し、自身の教育活動を整理する課題に取り組んだ。

(2) 第 2 回勉強会 (実践編)

日時：令和 8 年 3 月 10 日 (火) 10:30~12:00

場所：本館 4 階 第 1 会議室

ファシリテーター：木村堅一

参加者〈教員〉清水美里、当銘盛之、大城凌子、伊藤智美、三橋優介、木村堅一

〈職員〉新川悦子

第2回では、事前に作成したTPチャートをもとに、ペアワークを中心としたワークショップを実施した。参加者は異なる分野の教員同士でペアを組み、教育理念・教育方針・教育方法の関係を説明し合いながら、ポートフォリオの内容を精緻化した。

ワークショップでは以下の4つの活動を実施した。

1. 自己紹介および教育責任・改善・努力・成果の共有
2. 教育理念・教育方針・教育方法の対応関係の確認
3. 教育実践のエビデンス（根拠資料）の検討
4. 今後の教育目標および振り返りの共有

ペアワークでは、心理的安全性を重視し、相手を尊重して意見を聴くことを基本姿勢とした。参加者は互いの教育実践について対話を行いながら、自身の教育理念と授業実践の関係を整理した。

3. 勉強会の内容

勉強会では、ティーチング・ポートフォリオ作成のプロセスに沿って、以下の活動を実施した。

まず、授業で実践している教育方法を付箋に書き出し、日常的に行っている教育行動を整理した。その際、単なる考え方ではなく、「毎回小テストを実施する」「グループワークを導入する」など、具体的な行動を動詞で表現することが求められた。

次に、それらの教育方法の背後にある理由を検討し、教育方針を抽出した。さらに、方針の背後にある教育理念を整理することで、「理念 → 方針 → 方法」という構造で教育活動を体系化した。

また、参加者は授業評価アンケート、シラバス、教材資料などをエビデンスとして整理し、教育活動の根拠を明確化した。

勉強会では、参加者の教育実践として、アクティブラーニングの導入、授業後課題による継続学習支援、詳細シラバスの作成、授業資料の公開などの取り組みが共有され、教育方法の多様性について理解を深める機会となった。

4. 成果

本勉強会を通して、以下の成果が確認された。

①教員自身の教育活動を体系的に振り返ることで、教育理念と授業実践の関係を整理することができた。

②異なる専門分野の教員との対話を通じて、教育方法の多様な実践を共有することができた。

③教育活動のエビデンスを整理することで、授業改善や教育の説明責任につながる視点を獲得することができた。

④参加者は今後、新任教員の支援を担うメンター候補として、FD活動の発展に寄与する

ことが期待される。

5. 受講者アンケート結果

勉強会終了後に受講者アンケートを実施し、5名から回答が得られた。アンケート結果では、①勉強会への取り組み度、②勉強会終了時の目標達成度については、いずれも「満足」または「非常に満足」の回答が多く、本勉強会が教育活動の振り返りに有効であったことが確認された。

また、自由記述では、次のような意見が寄せられた。

- 自身の教育活動を体系的に整理できた
- 他の教員との対話から新たな気づきを得ることができた
- 授業改善の方向性が明確になった
- ペアワークによる対話が特に有益であった

一方、改善点として、

- 教員同士のディスカッション時間をさらに増やしてほしい
- より多くの教員が参加できる機会を設けてほしい
- FD活動として広く展開してほしい

などの意見が挙げられた。

6. 今後の課題

本勉強会を通して、今後のFD活動に向けた課題として以下が挙げられた。

- 教員間の授業実践共有の機会の拡充
- 大人数授業への対応方法の検討
- ティーチング・ポートフォリオの継続的更新
- 新任教員研修との連携

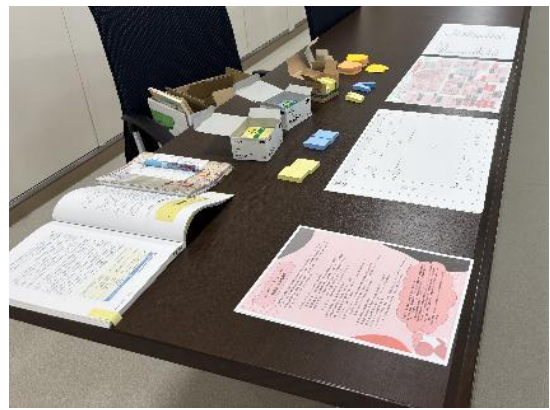
今後は、本勉強会で得られた成果をもとに、ティーチング・ポートフォリオを新任教員研修の一環として位置づけることも検討していく予定である。

7. まとめ

本勉強会は、教員自身の教育活動を可視化し、教育理念と授業実践の関係を整理する有効なFD活動として実施された。参加者は、教育活動の振り返りと他教員との対話を通じて、授業改善に向けた新たな視点を得ることができた。

今後も、本学における教育の質向上を図るため、ティーチング・ポートフォリオを活用したFD活動を継続的に実施していく予定である。

FD委員長 木村堅一



第2回ティーチング・ポートフォリオ勉強会の様子
(2026年3月10日 本館4階 第1会議室)